

論文内容の要旨

論文題目 Correlation between morphology and EGFR mutations in lung adenocarcinomas. Significance of the micropapillary pattern and the hobnail cell type.

肺腺癌における形態学的特徴と上皮成長因子受容体 (EGFR) 変異の関連性について -micropapillary パターンと鋸釘型細胞型は変異の有無と関連している

氏 名 二宮浩範

上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異の有無は腫瘍のチロシンキナーゼ阻害薬に対する感受性と有意に関連しており、日本やアメリカで最も頻度の高い腺癌においては特に重要である。日本人における EGFR 遺伝子変異と病理学的所見の関連を調べるために、WHO 分類と細胞型（鋸釘型、円柱型、多形型）を用いて、詳細な病理学的解析を行った。107 例の外科切除された症例を対象とし、臨床病理学的データと EGFR 遺伝子変異の有無との関連を調べた。計 63 例 (59%) の症例において exon18-21 における EGFR 遺伝子変異が認められ、女性 ($P=0.003$)、非喫煙者 ($P=0.008$)、鋸釘細胞型を呈する症例 ($P<0.00001$) で有意に多くみられた。さらに bronchioloalveolar (BAC) 成分と micropapillary パターンを有する症例で有意であった (それぞれ $P=0.012$, $P=0.043$)。この詳細な病理学的解析により肺腺癌においては、鋸釘型細胞型であること、BAC 成分、micropapillary パターンの有無が EGFR 遺伝子変異の予測因子であることが明らかとなった。